

地域文化演習（3年選択必修）＝卒業論文を考えるための地理学文献調査・講読を中心とする授業

担当教員名	授業名	演習テーマなど	演習内容・演習(ゼミ)合宿など	授業曜日と時限
小田匡保	地域文化演習 A	歴史地理・文化地理の文献講読と現地調査	前期：歴史地理・文化地理の文献講読 後期：10～11月に2～3泊で群馬県榛名山（榛名湖・榛名神社門前町）での現地調査とレポート作成	水 5
櫻井明久	地域文化演習 B	ヨーロッパ研究と身近な地域調査	内容・方法の詳細については受講する皆さんと相談することになるが、現時点では、二つのテーマ、①文献や映像資料などを利用したヨーロッパの説明（中・高用の地誌教育目的を含む）と、②身近な地域社会に起きている最近の現象、について討論などを通じて明らかにしたいと考えている。ゼミ合宿については受講者と相談の上決めたい。	月 5
土' 谷敏治	地域文化演習 F	交通・都市・人口に関する論文の講読と調査・研究計画の立て方を身につける	前期は文献検索方法の習得、論文の講読を行う。論文講読では、毎回担当者を決めて内容を発表し、それについて討論する。後期は、興味ある分野について研究計画を実際に立案し、その内容の適切さ・問題点について討論する。希望があれば、現地調査・関係施設の見学等を行うことも考慮する。	火 5

地域文化調査法（3年選択必修）＝卒業論文を考えるための地域調査を中心とする授業

担当教員名	授業名	調査のテーマなど	調査地域	調査期間	調査内容・履修上の注意事項など	授業曜日と時限
佐藤哲夫	地域文化調査法 A	日本（本土）とは風土や歴史的背景の異なる地域の特色を研究する。	那覇市と周辺	10月28日～31日(予定)	文献の輪読、地形図や空中写真を用いた作業、人口や社会・経済の統計分析、土地利用や景観の観察などで、地域研究の方法を学ぶ。自宅でもインターネットを利用できる環境にあることが望ましい。	水 4
須山 聡	地域文化調査法 B	奄美大島の地域性	鹿児島県奄美大島	6月30日～7月4日又は7月7日～7月11日	最近の調査テーマ：高齢者・集落景観（サンゴ石垣・高倉・防風林）・観光・サトウキビ・果樹栽培・集落行事など。テーマ設定は自由。	金 4
橋詰直道	地域文化調査法 F	地方都市の機能と自立	山形県米沢市	6月29日～7月3日(予定)	地方都市における機能と自立をまちづくりを通して考える：住宅地とまちづくり、商業とまちづくり、観光とまちづくりなどの班に分けて調査し、報告書としてまとめる。6月までは文献検索とレビュー発表、調査期間中は毎夜レポート、終了後7月まとめレポート提出、9月から報告書用レポートに修正して提出。12月報告書完成と班別発表を行う。	月 5

平成20年度地域調査入門のテーマ・内容・調査地域一覧 (2008. 3. 10)

地域文化・地域環境

地域調査入門 (2, 3, 4年選択) 両専攻共通＝現地で地域の見方や調査の手掛かりを学ぶ授業 (2単位)

担当教員名	授業名	調査のテーマなど	調査地域	調査期間	調査内容・履修上の注意事項など	授業曜日と時限
櫻井明久	地域調査入門A	人文・社会関係の野外観察	那須扇状地とその周辺	5月下旬の2泊3日を予定	那須では、農村地域の生業と田舎町の変化を野外観察・土地利用などから調べたい。また、通常の授業時間のうち一部の時間を使って、大学周辺で野外観察や調査法を考えたい。	前期 木2
長沼信夫	地域調査入門D	地域の自然と人に接して学ぶ	伊豆半島中・西部地域	10月28日～31日	伊豆半島の海岸地形、伊豆半島の産業と生活など	後期 金3

平成20年度地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧 (2008. 3. 10)

地域環境

地域環境演習（3年選択必修）＝卒業論文を考えるための地理学文献調査・講読を中心とする授業

担当教員名	授業名	演習テーマなど	演習内容・演習(ゼミ)合宿など	授業曜日と時限
平井幸弘	地域環境演習 A	水辺の環境問題	地理学の視点から環境問題について取り組むに当たっての基本的なマナーについて、(1)文献のレビュー、(2)地域調査の方法、(3)データの収集と分析、(4)レポートのまとめ方などについて学ぶ。前期は、主に様々な水辺の環境問題に関する既存の文献を読み合わせ、論点を整理する。9月又は10月頃に、一泊二日で関東地方の湖沼(霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼、澗沼などのうち、1～2箇所)を訪ねて、ゼミ合宿(土浦市の国民宿舎の予定)。後期は、各人が環境問題に関する具体的なテーマを設定し、それぞれ関連するデータを収集・分析、また地図作業等を行って、最後に考察を加えてレポートとしてまとめる。	水 4
高木正博	地域環境演習 B	河川、湧水等の水環境と水利用	前期は、各自が調査研究してみたいと思っているテーマについて、文献や現地調査した結果を発表してもらう。後期も同様に発表形式をとるが、原著論文の紹介に重点を置き、研究目的・方法・考察・図表等の内容について皆で検討する。発表日・テーマは事前に決めておき、当日は発表者がまとめたレジュメをもとに、全員でその内容やテーマとの関連性について討論する。受講生が希望すれば、10月頃現地調査(合宿・巡検)を行いたい。地域は関東周辺を考えているが、相談のうえ決定する。	金 5
長沼信夫	地域環境演習 F	文献・資料研究	地理学に関する文献・資料の研究を中心に行う。(受講者の希望により地域環境の巡検・見学会を実施する)	月 5

地域環境調査法（3年選択必修）＝卒業論文を考えるための地域調査を中心とする授業

担当教員名	授業名	調査のテーマなど	調査地域	調査期間	調査内容・履修上の注意事項など	授業曜日と時限
江口 卓	地域環境調査法 B	屋久島の自然と環境	鹿児島県屋久島	10月中旬(予定)	授業では、屋久島の気候データの解析を中心に行い、現地で、気候と植生の関連について調査を行う。このため、履修を希望する学生は、気候学を履修または本年度履修することが望ましい。	金 4
田中 靖	地域環境調査法 D	糸魚川ー静岡構造線縦断	白馬ー諏訪ー甲府	6月下旬(3泊4日)	活断層、地すべり・崩壊、日本列島の形成、土地利用など	水 3
早船元峰	地域環境調査法 F	自然と人間のかかわりあい	北海道(とくに道央)	9月上旬の予定(現地3泊4日)	現地集合、現地解散 自然班、土地利用(農業)班、観光班に分かれて行動	木 4